

2020年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社 高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

2019年8月7日

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

市場環境は楽観を許さない...

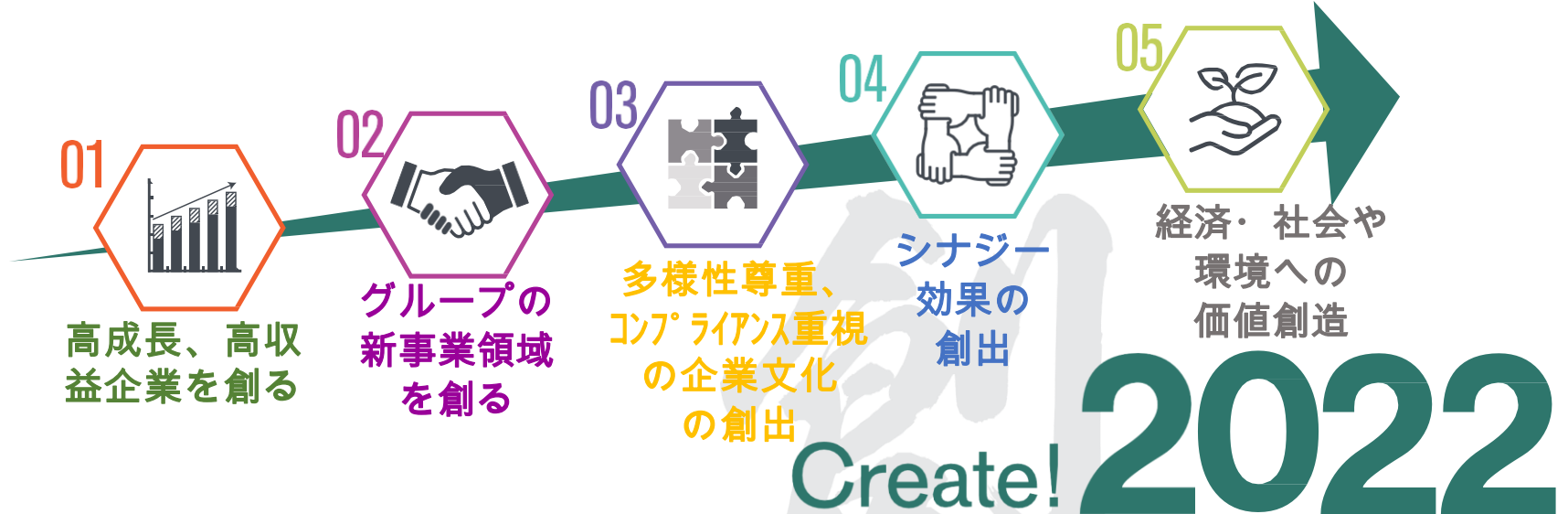
プラス要因

- 国内建設投資額は50兆円超水準が今後3年は持続と見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を持続と予想。
- 東名阪の土地有効活用ビジネスは堅調継続と予想。賃貸マンション以上に非マンション需要の伸びが高いと見る。

マイナス要因

- 国内建設投資は中計最終年の2022年3月期以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 新設工事件数の減少。
- 大都市圏の建替案件の着工時期が長期化。
- 金利上昇トレンドとなった場合、賃貸マンション等の需要に影響。

しかし、高松コンストラクショングループは、5つの「創る」を柱に成長継続！



業績(連結)の推移

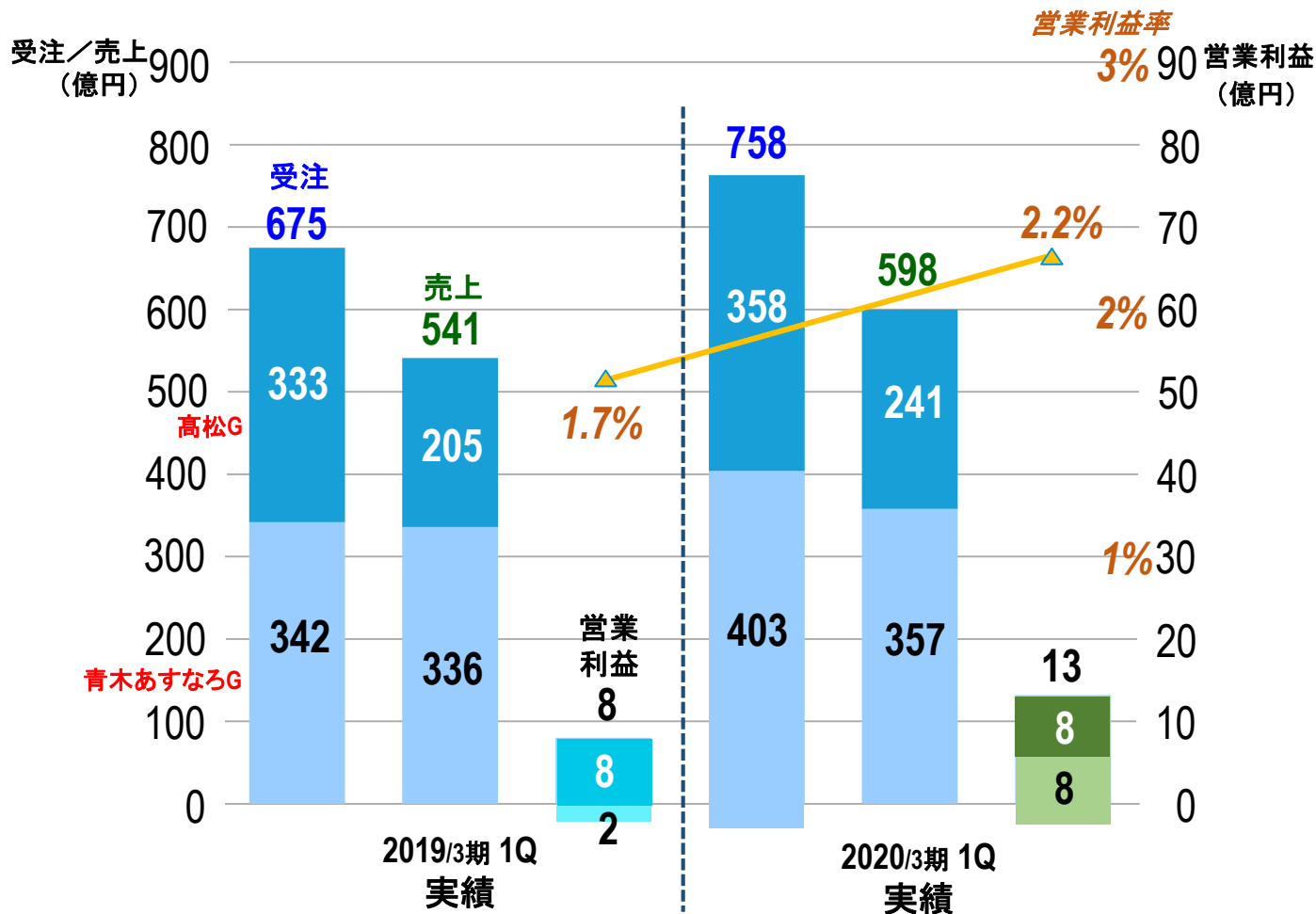
1. 受注高: 対前期+12.2%増。過去最高の第1四半期。
2. 売上高: 対前期+10.4%増。8期連続増収、7期連続過去最高の第1四半期。
3. 利益: 売上総利益・営業利益・経常利益は大幅増。
特損計上(投資有価証券評価損)、法人税等の増加、および青木あすなろ建設グループの利益割合増加に伴う少数株主持分純利益の増加により、親会社株主に帰属する四半期純利益は微減となった。

単位:億円

項目 (単位:億円)	2019/3期 Q1	2020/3期 Q1	増減率(%)
受注高	675	↑ 758	+12.2%
売上高	541	↑ 598	+10.4%
売上総利益 (売上総利益率)	63 (11.8%)	↑ 74 (12.4%)	+16.1%
営業利益 (営業利益率)	8 (1.7%)	↑ 13 (2.2%)	+47.7%
経常利益 (経常利益率)	9 (1.7%)	↑ 13 (2.3%)	+45.5%
親会社株主帰属四半期純利益 (四半期純利益率)	4 (0.9%)	4 (0.7%)	△8.9%

グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移（連結）

1. 受注高は12.2%増の758億円。両Gともに増（高松G +7.5%、青木あすなろG +17.9%）。
2. 売上高は10.4%増の598億円。両Gともに増（高松G +17.7%、青木あすなろG +6.3%）。
3. 営業利益は47.7%増の13億円。高松Gは微減、青木あすなろGは6億円の増。



※ 2020/3期1Qの受注は他セグメント・グループからの受注があるためセグメント・グループごとの合算値は全社合計と一致しない。
 ※ 管理部門費等があるため、営業利益のセグメント・グループごとの合算値は全社合計と一致しない。

グループ別・セグメント別 受注高・売上高・売上総利益 (連結)

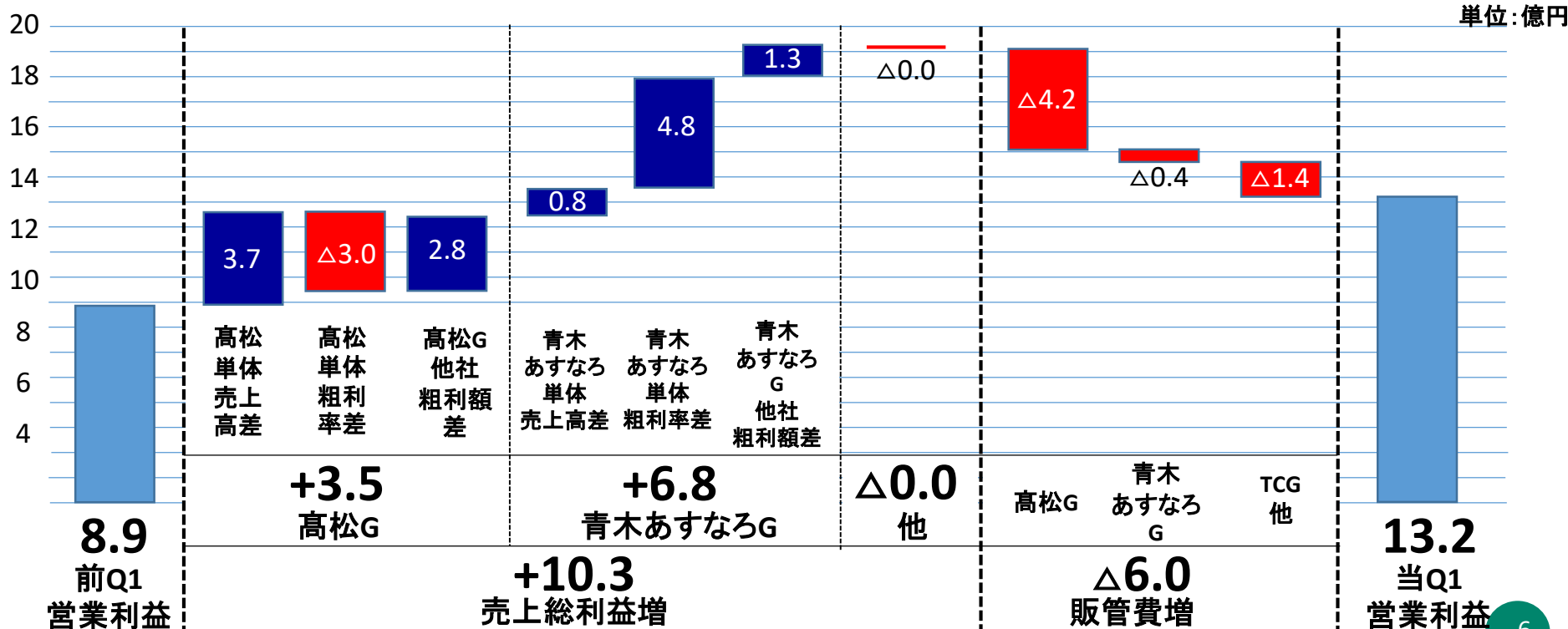
1. 受注高は12.2%増の758億円。土木は青木あすなるG好調で大幅増なるも建築は減。
2. 売上高は10.4%増の598億円。高松G・青木あすなるGともに増。全体で土木 9.1%減、建築 30.6%増。
3. 営業利益は44.7%増の13億円。高松Gは微減なるも青木あすなるGは大幅増。

高松コンストラクショングループ				受注高			売上高			営業利益								
				20/3期1Q	20/3期1Q	20/3期1Q	20/3期1Q	20/3期1Q	20/3期1Q	20/3期1Q	20/3期1Q	20/3期1Q						
				(19/3期1Q)	(19/3期1Q)	(19/3期1Q)	(19/3期1Q)	(19/3期1Q)	(19/3期1Q)	(19/3期1Q)	(19/3期1Q)	(19/3期1Q)						
高松建設グループ 高松建設 272 サービス(天咫) 168 高松(天咫) 4 高松(天咫) 4 高松(東京) 4 エステート(天咫) 4 エステート(東京) 4 住之江工業 JPホーム タカマツハウス (新規グループ加入) タツミプランニング コーポレーション 金剛組 中村社寺				青木あすなる建設グループ 島田組 新潟みらい建設 あすなる道路 東興シオテック 70 48 3 青木マリン 青木建設工業 101 56 △2 エムズ 青木あすなる建設 197 232 6			土木	321 (216) +48.8%	242 (267) △9.1%	11 (7) +50.5%	建築	387 (419) △7.6%	306 (234) +30.6%	9 (8) +9.9%	不動産	49 (40) +22.4%	49 (40) +22.4%	3 (1) +96.4%
TCG USA 272 168 4 高松(天咫) 4 高松(東京) 4 エステート(天咫) 4 エステート(東京) 4				※各社受注高(億円) ※各社売上高(億円) ※各社営業利益(億円)			758 (675) +12.2%	598 (541) +10.4%	13 (8) +47.7%									
受注高 20/3期1Q (19/3期1Q) 358 (333) +7.5%				403 (342) +17.9%														
売上高 20/3期1Q (19/3期1Q) 241 (205) +17.7%				357 (336) +6.3%														
営業利益 20/3期1Q (19/3期1Q) 8 (8) △8.2%				8 (2) +279.3%														

単位:億円。 管理部門費等があるため、営業利益のセグメントごとの合算値は全社合計と一致しない。

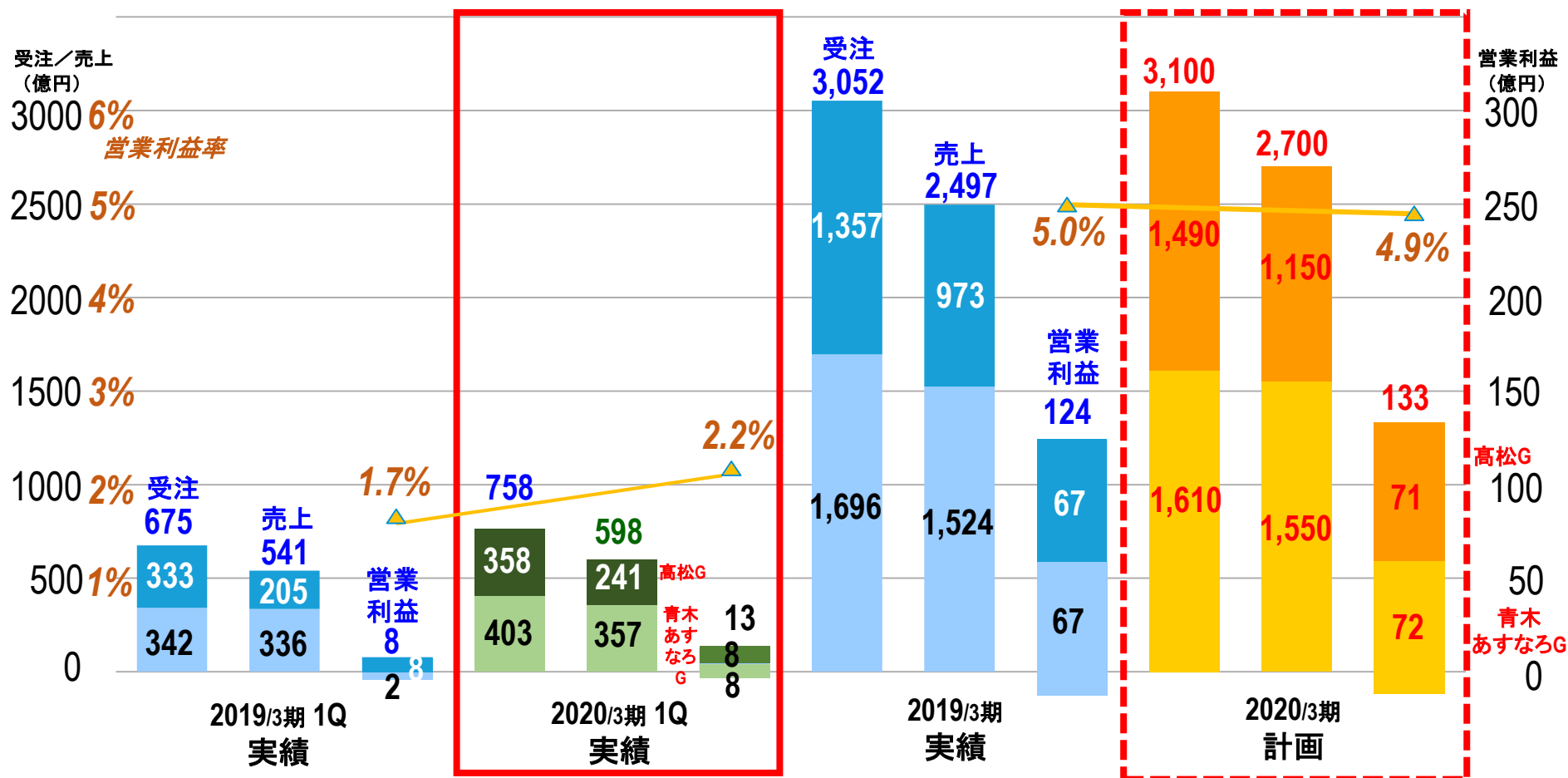
営業利益(連結)の対前年差異説明

1. 営業利益は前期8.9億円から13.2億円に増。売上総利益10.3億円増に対し、販管費は6.0億円増に抑えたため。
2. 高松Gの売上総利益は3.5億円増加。高松建設単体の売上総利益も増大、売上高は順調に推移。
3. 高松Gにタカマツハウスとタツミプランニングが新規加入したが、PLへの影響はQ1はほとんどなし。
4. 青木あすなろGの売上総利益は6.8億円増加。
 - 青木あすなろ単体の売上総利益率が前期7.1%から9.5%の上昇効果が大。
5. 販管費は全体で6.0億円の増。
 - 高松Gの4.2億円の増のうち、高松建設単体の増が3.4億円(主に人件費)。
 - 「TCG他」の主要部分は東京・新オフィスの賃借料(Q2以降は各グループの販管費に組み込む予定)。



グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移と見通し (連結)

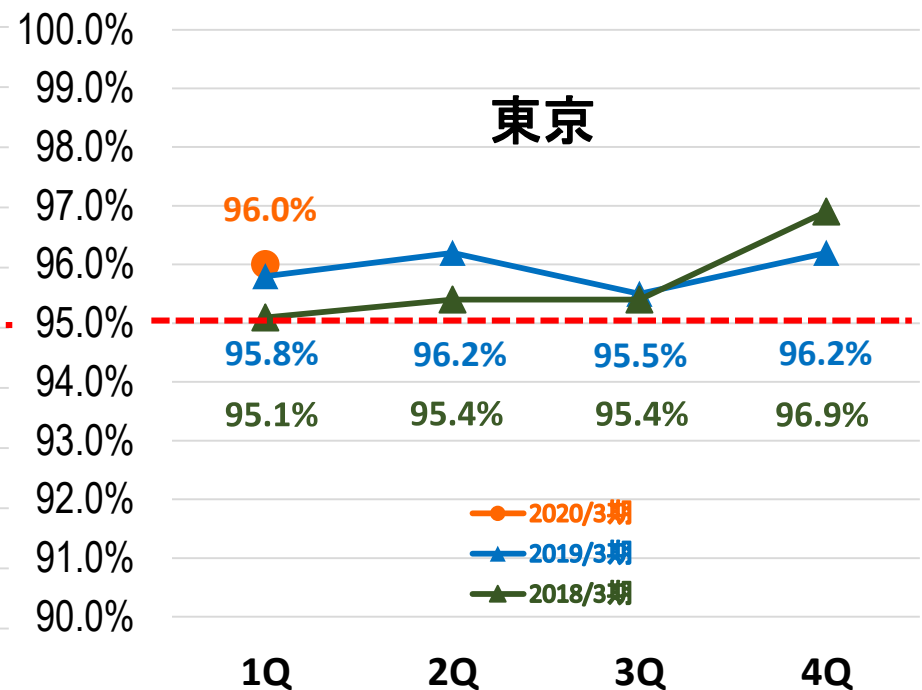
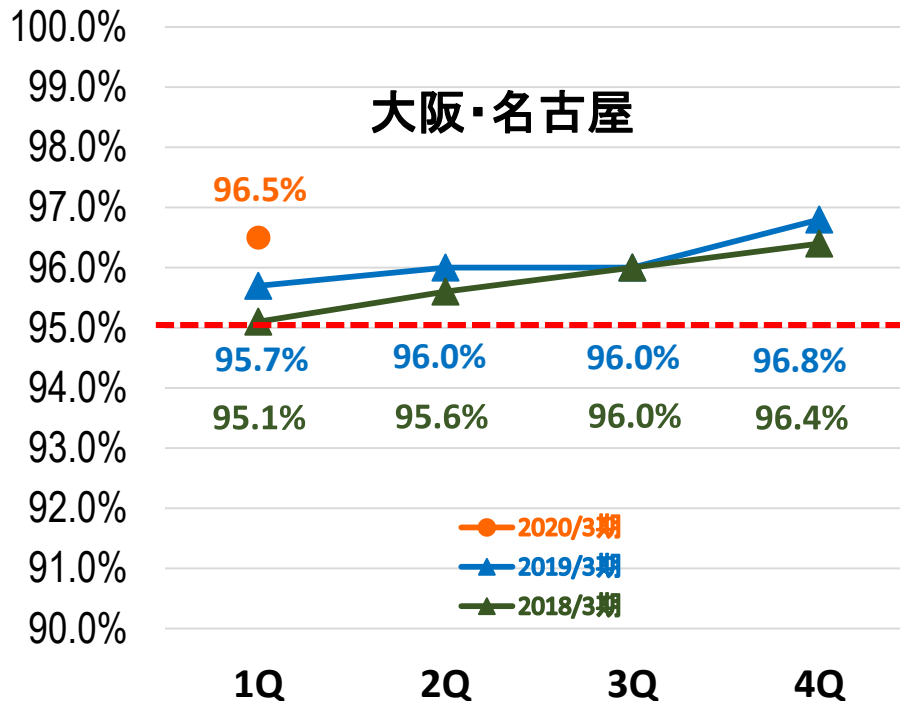
1. 受注高・売上高・営業利益ともに順調に推移しており、
 対外発表した通年受注3,100億円、売上高2,700億円、営業利益133億円は達成できる見通し。



単位: 億円。 管理部門費等があるため、営業利益のグループごとの合算値は全社合計と一致しない。

高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

1. 東京・大阪ともに、入居率は20/3期1Qも95%以上を維持。
2. 東名阪・都心部の賃貸マーケットは底堅い動きが継続していると考える。
3. 東名阪・都心部でも、将来的には空き家が増加するとの見方もあるが、高松建設が注力している主要駅周辺に関しては、足元の需要は堅調。



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市

「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

「入居率」=各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が管理している高松建設施工物件の入居戸数

÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が管理している高松建設施工物件の総戸数